

## 点検評価表（外郭団体）

## I 団体の概要

（令和2年4月1日現在）

団体名	公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会		
所在地	静岡市葵区駿府町1番70号	設立年月日	平成14年3月29日
代表者	理事長 中西 勝則	県所管課	スポーツ・文化観光部スポーツ振興課
設立に係る根拠法令等	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 公益財団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律		
団体の沿革	平成10年12月9日 任意団体設立 平成14年3月29日 財団法人化 平成25年4月1日 公益財団法人に移行		
運営する施設	-		
団体ホームページ	<a href="http://www3.tokai.or.jp/s-spokyo/index.html">http://www3.tokai.or.jp/s-spokyo/index.html</a>		

出資者	出資額(千円)	比率(%)
静岡県	76,468	75.4
市町	24,999	24.6
団体	1	0.0
基本財産(資本金)計	101,468	100.0

役職員の状況(人)			
常勤役員	1	常勤職員	3
うち県OB	0	うち県OB	0
うち県派遣	0	うち県派遣	0
非常勤役員	23	非常勤職員	0
役員計	24	職員計	3

## II 点検評価（団体の必要性）

## 1 団体の設立目的（定款）

障害者スポーツの振興を図ることにより、スポーツを通じて障害者の社会参加を促進し、もって障害者福祉の向上を図ることを目的とする。

## 2 団体が果たすべき使命・役割

- ・障害者スポーツの普及育成活動の推進
- ・静岡県障害者スポーツ大会の開催並びに障害者スポーツ大会への参加等派遣及び参加
- ・その他この法人の目的を達成するために必要な事業の実施

## 3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会経済環境の変化や新たな県民ニーズ	スポーツを通じた障害者の社会参加の促進に加え、東京2020大会をはじめとする国際大会に向けて、障害者スポーツへの関心が高まっている。
行政施策と団体活動との関係（役割分担）	県は障害者スポーツに関する各種施策や事業を立案し、団体は委託等により事業を執行するとともに、県の施策に沿って適宜自主事業を展開する。
民間企業や他の団体との関係（役割分担）	5社の民間企業から県障害者スポーツ大会の協賛・協力を受けている。大会やイベントを開催する際、各スポーツ団体や福祉団体と連携し周知するなど、障害者スポーツの裾野拡大や障害者の理解促進に努めている。

#### 4 事業概要

(単位:千円)

区分	事業名	事業概要	R1 決算	R2 予算
県補助	普及啓発事業	障害者スポーツに対する理解を深め、障害者自らがスポーツに親しむ機会を得るための広報活動や用具等の貸出しを行う。	1,021	1,055
県委託	地域活動推進事業	障害者が身近な地域でスポーツに参加できるように、スポーツ教室の開催、巡回指導等を行う。	3,988	3,862
県委託	障害者スポーツ指導員養成事業	障害者スポーツの指導に取り組む意欲のある人を対象に、初級障害者スポーツ指導員養成、スキルアップ講習会の開催等を行う。	1,461	1,216
県委託	競技力強化育成事業	全国障害者スポーツ大会の強化候補選手を選出し、強化練習会を実施する。	3,492	8,257
県委託	スポーツ大会開催・派遣事業	わかふじスポーツ大会の開催、全国大会への選手派遣に加え、国際大会に出場する障害者アスリートを支援する等、障害者スポーツ選手の競技力発揮の場の提供や支援を行う。	59,932	67,166
県委託	地域スポーツ推進事業	県内障害者スポーツ指導員と連携し、障害者スポーツ普及の地域格差をなくすため、スポーツ教室を開催する。	17,890	15,581
合 計			87,784	97,137

#### 5 事業成果指標

指標の名称(単位)	目標(上段)及び実績(下段)				目標値(年度)
	H29	H30	R1	評価	
県障害者スポーツ大会の参加選手数(人)	2,859	3,019	3,180	B	3,500 (R3)
	2,859	2,930	2,902		
障害者スポーツ応援隊派遣回数(回)	6	9	11	A	17 (R3)
	11	16	17		

※評価 … A:目標達成 B:目標未達成 C:目標未達成(乖離大)

#### 6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	県障害者スポーツ大会の参加選手数は、昨年度よりも減少した。広報活動の強化等を継続していきたい。 障害者スポーツ応援隊派遣回数は、目標値を達成することができた。今後も派遣希望団体が増加する見込である。	○	県障害者スポーツ大会の参加選手数は、昨年度よりも減少し、目標値に届かなかった。東京2020大会をきっかけに、参加選手数を増やしていけるよう、引き続きスポーツ人口の裾野拡大を図る。 障害者スポーツ応援隊派遣回数は、目標値を達成し、派遣先から好評をいただいている。今後も更なる事業拡大が期待できる。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

## 7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
	<p>障害者の社会参加が推進される中、「スポーツ基本法」に、障害者スポーツが明確に位置づけられるなど、本協会の存在意義は増しており、社会状況に合致していると考えられる。</p> <p>○ 障害者スポーツ競技団体、福祉団体の協力を得ながら、県及び政令市からの委託を受けて、県障害者スポーツ大会の開催及び全国障害者スポーツ大会への選手派遣を実施しており、役割分担も明確で類似の機関はない。</p>		<p>本協会は、スポーツを通じた障害者の社会参加促進、障害者福祉の向上を目的とし、スポーツ教室の開催や県大会の開催等を行っている。東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催も予定されていることから、社会的に障害者スポーツへの関心が高まっている。このような社会的背景の中、障害者が今後もスポーツを楽しむことができる環境を整備するためにも、本協会の必要性は高いと認められる。</p> <p>○</p>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

## 8 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係る意見を除く)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
県スポーツ協会と連携し、事業運営において協働を推進	<p>○ 県スポーツ協会監事が当協会の理事に選任されている。また、当協会専務理事が県スポーツ協会評議員に選任されており、相互に事業運営に関わっている。</p>	<p>○ 両協会相互の役員兼務により、事業運営における協働が推進されている。</p>
-		
-		

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

### Ⅲ 点検評価（経営の健全性）

#### 1 財務状況

（単位：千円）

区 分	H29 決算	H30 決算	R1 決算	評価	備考(特別な要因)	
健全性指標	単年度収支 (d-h)	2,551	1,797	-4,343	B	台風19号による影響等
	経常損益 (a+b-e-f)	2,551	1,812	-4,343	B	台風19号による影響等
	公益目的事業会計	839	-4	-4,433	—	
	収益事業等会計	1,548	1,698	296	—	
	法人会計	164	119	-205	—	
	剰余金	-2,021	-224	-4,567	B	台風19号による影響等

※評価 … A:プラス B:特別な要因によるマイナス C:マイナス

区 分	H29 決算	H30 決算	R1 決算	主な増減理由等	R2 予算	
資産の状況	資産	114,233	123,725	126,433		126,457
	流動資産	10,876	18,010	20,646	退職給与引当資産分	20,646
	固定資産	103,357	105,715	105,787		105,811
	負債	14,786	22,481	29,532		30,566
	流動負債	13,062	20,381	26,959	未払金、未払費用分	26,959
	固定負債	1,724	2,100	2,573	退職給与引当資産分	3,607
	正味財産/純資産	99,447	101,244	96,901		95,891
	基本財産/資本金	101,468	101,468	101,468		101,468
	剰余金等	-2,021	-224	-4,567	赤字による	-5,577
	運用財産	0	0	0		0
収支の状況	事業収益 (a)	94,727	117,252	107,565		123,596
	うち県支出額	67,782	89,918	85,848		95,321
	(県支出額/事業収益)	(71.6%)	(76.7%)	(79.8%)		(77.1%)
	事業外収益 (b)	3,532	3,109	2,858		3,587
	うち基本財産運用益	674	674	674		674
	特別収益 (c)	0	0	0		0
	うち基本金取崩額	0	0	0		0
	収入計 (d=a+b+c)	98,259	120,361	110,423	全国大会中止による交通・宿泊費の減額分	127,183
	事業費用 (e)	95,335	118,173	114,293		126,149
	うち人件費	21,957	23,159	24,119		26,970
	(人件費/事業費用)	(23.0%)	(19.6%)	(21.1%)		(21.4%)
事業外費用 (f)	373	376	473		1,034	
特別損失 (g)	0	15	0		0	
支出計 (h=e+f+g)	95,708	118,564	114,766		127,183	
収支差 (d-h)	2,551	1,797	(4,343)		0	

## 2 経営改善の取組の実施状況と評価

経費削減のために、紙による送付をメールによる送付に切り替える等の取組をしている。  
自主財源確保のために、会員、賛助会員の募集に注力している。

## 3 赤字の要因（前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載）

台風19号の影響で、全国障害者スポーツ大会が中止となり、大会に係る委託事業費を減額したが、キャンセルにより実費負担が生じたため。

## 4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
△	台風や新型コロナウイルス感染症の影響で、実費負担が生じた分を、適正に報告できていなかった。 パラリンピック開催を契機にした会員、賛助会員の新規獲得による自主財源の確保に努めていく。	△	全国大会選手派遣事業について、要した経費について協会から適正な報告を受けていなかった。 今後は、協会に適正な報告を求めるとともに、自主財源確保の取り組みに協力していく。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

## 5 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 （経営健全性に係るもの）	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
-		
-		
-		

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

#### IV 改善に向けた今後の方針

##### 1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針(団体記載)	団体の方針に対する意見等(県所管課記載)
<p>パラトップアスリートへの支援強化に努めてきたが、東京2020大会後の支援については、現状の障害者アスリート支援事業費補助金のみとなる。新たなパラアスリート支援策を講じる必要があると考える。</p> <p>また、障害者アスリートと交流する機会や講演会の開催を通じた障害者理解や障害者スポーツに対する県民意識の醸成、自主財源の確保については、継続して取り組む。</p>	<p>東京2020大会に向けて、パラアスリートへの支援を強化してきた。これまでの支援をさらに発展させるためにも、大会終了後の継続支援は必要と考える。</p> <p>R2年度からは、前年までのパラスポーツ王国推進事業に代わり、パラサイクリング推進事業を立ち上げ、近年は特にパラサイクリングの普及に力を入れた事業が拡大している。</p> <p>しかし、障害者スポーツの裾野拡大も当協会の大きな目的であるため、県としても委託補助業務に関して、事業内容、経費を精査のうえ、予算の見直しを行っていく。</p>

##### 2 今年度の改善の取組

団体の取組(団体記載)	団体の取組に対する意見等(県所管課記載)
<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、年度当初の計画どおりに事業が進められていない現状の中、世の中に明るい話題をもたらすため、年2回の会報誌作成に注力する。そこで、会員や寄付も合わせて募り、収益の増加を図る。</p>	<p>県から委託する業務に対する理解も深く、障害者スポーツの振興に大きく貢献している。今年度は特にパラサイクリング推進事業に注力していきたいと考えており、パラサイクリングが県民にとってより身近になるよう、さらに取組を強化していただきたい。</p>

## V 組織体制及び県の関与

### 1 役職員数及び県支出額等

(単位:人、千円)

区分	H29	H30	R1	R2	備考(増減理由等)
常勤役員数	1	1	1	1	
うち県OB	0	0	0	0	
うち県派遣	0	0	0	0	
常勤職員数	3	3	3	3	
うち県OB	0	0	0	0	
うち県派遣	0	0	0	0	
県支出額	67,782	89,918	85,848	95,321	
補助金	37,460	46,377	51,619	40,068	2020東京パラリンピック「ふじのくに」スポーツ振興事業費補助金の減額分
委託金	30,322	43,541	34,229	55,253	障害者スポーツの裾野拡大を図るための事業拡大分
その他	0	0	0	0	
県からの借入金	0	0	0	0	
県が債務保証等を付した債務残高	0	0	0	0	

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額(当該年度は予算額)、借入金・債務残高は期末残高

### 2 点検評価(団体記載)

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	△	定員管理の方針等は策定していないが、業務量から勘案すると必要最低限の人員配置で業務を遂行している。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	○	常任の役員は1人で、県職員の役員は全て非常勤である。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	-	派遣職員はいない。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

### 3 点検評価(県所管課記載)

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	-	派遣職員はいない。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催も予定されていることから、障害者スポーツに対する関心は今後も増加することが予想される。しかし、障害者スポーツは健常者スポーツに比べて、障害の程度に応じて競技種目が細分化されているなど、運営に係る労力が大きなこと、スポンサーがつきにくいこと等から、県の助成が廃止された場合、事業そのものの存立が危ぶまれるため、県からの助成や委託は必要であり有効性も認められる。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

## VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

### 1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	-	-		
利用者アンケート	○	○	当協会の委託事業の中でも大きなウエイトを占める「静岡県障害者スポーツ大会(通称わかふじスポーツ大会)」終了後、選手や役員、ボランティアに対しアンケート調査を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会式はもう少し参加者主体を希望したい</li> <li>・多くの企業、自治体の後押しがほしい。静岡はパラスポーツでも先進的であってほしい</li> <li>・この大会は静岡県の底辺の大会でもあるということを忘れず関わっていききたい</li> </ul>
利用者等意見交換会	-	-		
その他 ( )	-	-		

○:実施している／公表している    -:実施していない／公表していない

### 2 事業やサービスの見直し例

申し込みの無かった市町にも大会プログラムを送付し、次年度からの参加を促した。